

東日本鉄道OB会の 皆さまへ

東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役副社長
池田 裕彦



OB会の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、JR東日本グループの事業運営に対しご理解と多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年6月より副社長に就任いたしました池田です。イノベーション戦略本部長と、新幹線およびサービスの担当となり、技術力で社会を変え企業価値を向上すべく務めてまいります。新幹線につきましては、昨年来のたび重なるトラブルにより、皆さまにご心配をおかけしていることを深くお詫び申し上げます。特に車両のトラブルが続いていますが、それぞれについて原因を徹底的に調査し、対策を講じてきております。1982年の東北・上越新幹線の開業から40年以上にわたり実績を積み重ねてきましたが、これまで経験したことのない事象が起きていることに、新幹線の安全・技術は完成されたものではなく、これからもさらに努力をしていかねばならないと受け止めております。

7月に、新たなグループ経営ビジョン「勇翔2034」を発表いたしました。鉄道事業を中心としたモビリティと生活ソリューションの二軸がそれぞれの強みを活かしながら、Suicaをあらゆるビジネスの基盤として進化させつつ、JR東日本グループだからこそできる二軸のシナジーを最大限に発揮させていきます。特に鉄道を中心とするモビリティがJR東日本グループの太く強い軸であることに変わりはありません。それを踏まえ、20年先を見据えたモビリティ中長期戦略「PRIDE & INTEGRITY」をあわせて発表しました。

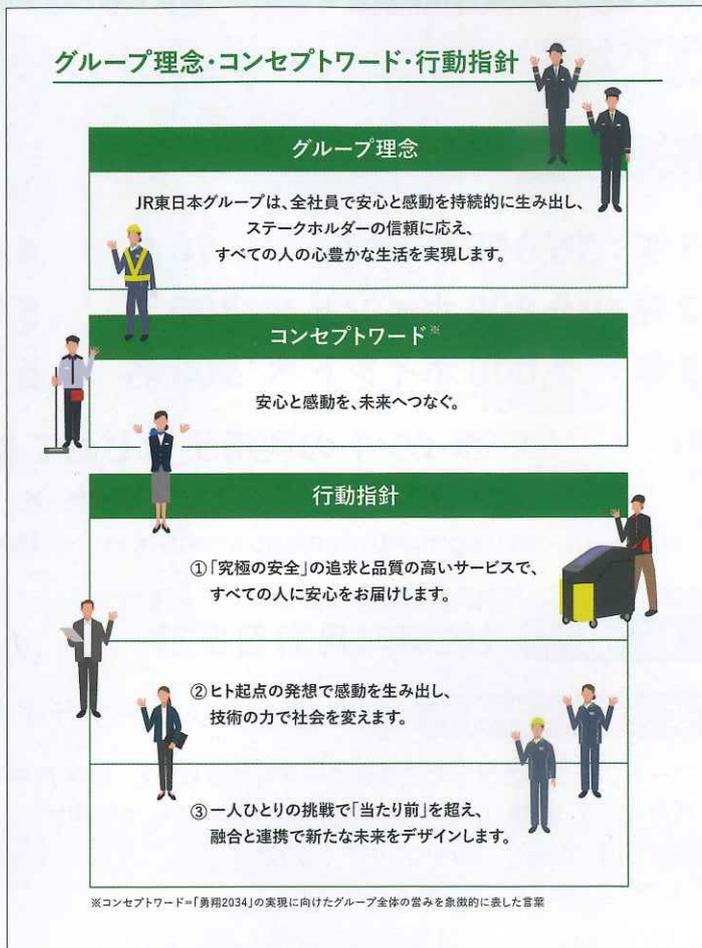
さらに高みをめざす新しい経営の中においても、「安全」は事業の根幹であることは変わりません。お客さまにとって安全であることは当たり前のことですが、その当たり前を提供するために、私たちグループ社員は安全の先にある「すべての人の安心」をお届けすることを、あらためて自身の使命としております。これから急速に加速する人口減少社会という重大課題に対して、これまで進めてきた省力化はもちろん、AIやロボットなどの新技術を取り入れて、個々のお客さまのご期待にお応えしてまいります。

OB会の皆さまがこれまでに築いてこられたJR東日本の礎の上に、次世代へとつながる新たな価値を創造していくことが、私たち現役世代の責務です。経営環境の変化が一層加速していく中で、単に変化に対応するだけでなく、新たなライフスタイルや働き方をJR東日本グループから提案し、安心と感動を生み出すことを通じてすべての人の心豊かな生活を実現してまいります。今後とも、皆さまのご指導とご支援を賜りながら、JR東日本グループのさらなる発展に尽力してまいります。

新たなグループ経営ビジョン 「勇翔2034」を策定

JR東日本グループは、「変革2027」に代わる新たなグループ経営ビジョン「勇翔2034」を策定しました。人口減少や少子高齢化に加え、新たな働き方、生成AIに象徴される技術の進展など、10年先に想定していた経営環境の変化が現在の課題として顕在化していることを踏まえ、これまでの「当たり前」を超え、グループの持続的成長をステージアップしていきます。

「勇翔2034」では引き続き「安全」を経営のトッププライオリティに据え、「成長のための5つのエンジン」で、グループ内におけるこれまでの常識やステークホルダーがJR東日本グループに対して抱く期待水準・イメージという当たり前を超えていきます。さらに、ライフスタイル・トランスフォーメーション（LX）という価値を創造し、安心と感動をステークホルダーにお届けすることを通じ、すべての人の心豊かな生活を実現します。



成長のための5つのエンジン

- 基盤のエンジン「すべての人にとっての安心」
- 基盤のエンジン「グループ社員の働きがいと成長の実感」
- 事業活動のエンジン「ヒト起点のマーケットイン」*
 - *ヒト起点のマーケットイン・・・お客さまや地域の皆さま、共創パートナーなど「すべての人」を起点として、表面的なニーズやデータだけではなく、その人の想いや価値観に深く共感し、本質的な課題や欲求をともに探求しながら、お客さまに安心や感動をもたらす新たな商品・サービスを創造すること
- 事業活動のエンジン「技術力の深化と進化」
- プロセスのエンジン「融合と連携」